

TRICOLOR

大会・公式戦結果

Top

【県リーグ(KSL-1)】

▼第1節

vs VERDRERO 港北 0-1●

Youth

【日本 CY(U-18)関東大会 1次予選】

vs 相模原 FC 1-0○

vs フットワーククラブ 0-1●

vs インフィニット相模原 2-5●

vs つくば FC 1-1△

vs FC 川崎栗の木 1-4●

vs 水戸ホーリーホック 0-9●

7チーム中第6位

Junior Youth

【日本 CY(U-15)県大会】

▼1回戦

vs FC Willgrove 1-2●

【県 U-15 リーグ】

vs 綾瀬 FC 1-1△

小6

【横浜市春季少年サッカー大会】

vs FC 杉田 2-0○

vs 横浜 SC つばさ 0-3●

vs FC オフサイド 0-1●

vs あざみ野 FC-B 0-1●

vs 鴨志田第一 FC 1-1△

vs 北方 SC 4-0○

7チーム中第5位

小4

【横浜市春季少年サッカー大会】

☆A チーム

vs 本牧少年 SC-B 0-3●

vs FC サンダース 0-6●

vs FC.YSA-B 3-1○

vs 横浜東 SC 1-3●

vs 小山台 SC-A 0-12●

vs 太尾 FC-B 1-1△

7チーム中第6位

☆B チーム

vs 飯島 FC 1-13●

vs 3BSC 0-9●

vs 横浜 F・マリノスプライマリー 0-19●

vs 折本 SC 0-8●

vs 桜ヶ丘 FC 0-3●

vs フレンド SC 0-8●
7チーム中第7位

Papas

☆Rec

【県シニアリーグ四十雀4部】

vs 川崎 0-1●

vs 座間 0-1●

vs コロコロ 1-0○

vs 明星 1-1△

☆Comp

【県シニアリーグ四十雀2部】

vs 寒川 0-0△

vs 南足柄 3-1○

今、グラウンドでは・・・

Top

【県リーグ開幕】

今年も4月18日に神奈川県社会人サッカーリーグ1部が開幕しました。

同じ地域の VERDRERO 港北との対戦だったのですが、残念ながら0-1(0-0,0-1)で敗れました。

前半途中で退場者を出してしまったことありますが、それ以上に練習してきたことが出し切れなかった試合内容でした。

技術的な面より、練習で求めてきたことは、チームとしてやるべき戦術や、コミュニケーションの部分です。

相手がいる状況よりも一人で前を向いた状態でボールが持てればいろいろなパターンで攻撃ができます。

そういう状況は周りを見ることにより一番いい選択をすることによって生まれてくるはずですが。

サッカーにおける状況判断は、ボールを持ってからではなかなかできません。常に周りの選手を見る習慣をつけながら、正しい状況判断をする練習をすることも大切なことだと思います。

5月には県リーグが2試合予定され



ています。

5月16日(日)18:30～寒川中学校においてvsフットワークと、また5月23日(日)19:00～谷本公園にてブレッサ相模原との試合があります。特に23日のブレッサ相模原戦は小さなスタンドがあるグラウンドです。ぜひかながわクラブのタオルマフラー持参で応援に来てください。(中本 洋一)

Youth

日本クラブユースサッカー選手権関東予選が終わりました。

7チームのリーグ戦を短期間にこなし、1位チームのみが2次予選進出となります。

今回は、前年度2次予選に進出した3チーム(水戸ホーリーホック、FC川崎栗の木、フットワーククラブ)が同じリーグとなり、まさに死のグループとなりましたが、かえっていい勉強にもなったと思います。

自分たちの足りないところ、修正しなければいけないところなど見えてきたのではないのでしょうか？

このままでは終われないでしょうし、そのつもりもありません。

高い目的意識を保ちながら、次の試合に向けて準備を始めましょう。

(内田 佳彦)

以下、田中孝司コーチにコメントを頂きました。

サッカーをもっと楽しむには基本が大切です。もちろん、ひたすら蹴って走ってのサッカーが楽しいという方は別ですが…。

ここで言う基本とは何でしょうか？

それは、「止める」「蹴る」「運ぶ」といった基本的な技術であり、「パスしたら走る」「周りを見る」などの常識的な戦術であり、「必要な時に必要な場所に走れる」体力でもあります。

そして、仲間や相手、審判をリスペクトする心です。

それらが低い状況では、なかなかサッカーは楽しくなりませんし、勝負がか

かった時には勝つことなど望めません。

基本の大切さをもっと認識しましょう。

そして、もっと楽しいサッカーを実現しましょう。

Junior Youth

日本CY選手権が終わり、県U-15リーグが始まりました。

次の目標である夏の「高円宮杯」に向けて有意義なものにして欲しいと思います。

試合に負けても、良いプレーができたとか、チャンスは多くつくれたとか、いうことで自分自身を納得させていたらいつまでたっても勝てないでしょう。高円宮杯に向けて、1人でも多くの選手がこれにはやく気づいて、それがチーム全体の雰囲気になるように結束して行って欲しいと思います。(二木 昭)

小 6

【選手の皆さんへ】

A君:「コーチ、トイレに行ってもいいですか？」

鈴木:「ダメ。(と答えるようにしています)」

B君:「あの～、〇〇がないんですけど…。」

鈴木:「そっか。どうしようか。」

これは、君たちとの実際のやりとりです。このようなメッセージに対して、コーチは敢えて距離を置くような返答をすることになっています。自分が何をしたいのか、どうするのかを相手に伝えること、今の君たちにとって一番足りない部分かもしれません。

見て、聞いて、考え、そして相手に伝えるには、どうすれば良いのでしょうか。これを機に考えてみてください。でも、まずはここから変えてみませんか。「コーチ、トイレに行ってきます！」「〇〇が見当たらないので探してきます！」

(鈴木 章弘)

小 5

【次のステップへ】

メンバーも増えグラウンドでは、以前より練習は激しく活気があり、早くグラウンドに来る選手・遅刻をしていた選手が早めにグラウンドに来るなど個人差はありますが1人1人の意識・プレー面においても就任当初より格段に上がったことが見えてとても嬉しく思います。

そこで今年1人1人意識の更なる向上を目指すために私の引率なしで子供たちだけで試合会場の最寄り駅に集合・試合会場まで行くなど様々なことを体験させようと考えております。その際には保護者の方にもご協力をお願いすると思っておりますので宜しくお願いいたします。

【ミスが減らせる人間になりましょう】

この題名は、高校時代の数学の先生に私が言われたことです。ミスが起きるということは必ず何か原因があるはずです。例えば、学校のテストやサッカーでもミスの少ない人は必ず成功を収めることが出来ます。

その様なことが出来る人は必ず「復習」をする人だと私は思います。サッカーに関して言えば①ミスが起こってしまった理由を自分なりに考える②そうならない為にどうしたらいいかを考える③実践の3点が重要だと私は考えます。

今年の1年間は、選手たちに「実践→復習→実践→復習…」をどんどんやってもらおうと考えています。

(丸山 祐人)

小 4

【そういえば】

長いことGWにどこかに出掛けた記憶がありません。これまではTVで渋滞のニュースを見ても特に何とも思わなかったのですが、何故か今年もGWにマリノスタウンに居たことでそんなことを「ふっ」と思ったりしました。

【春季大会】

さて、4月から始まった春季大会、今回一人ひとりが出来るだけ長い時間出場出来るように「機会均等・質的平等」をベースに現時点でベストと思われるメンバー構成でA・Bの2チームにて参加しました。結果としては一人ひとりの出場時間に少し差が出てしまいましたが、試合展開、個人の調子、相手への対向などで判断をしたことを保護者の皆様にはご理解いただきたいと思います。

結果はAチーム(10名)は1勝1分4敗、Bチーム(11名)は6敗、と戦績だけを見れば残念と思われるかもしれませんが、1試合毎に成長していく選手を見て今後をすごく楽しみに思っています。

Aチームは、勝つ喜び、勝ちきれず引き分けた悔しさも経験しましたが、逆に負けてしまった試合でもしっかりマークが出来たりチャレンジする気持ちを持って前を向いてトライできたことはこれまで頑張ってきたことを発揮できた良い機会でした。

Bチームは、すばらしい環境でこの上ない相手と戦うことが出来ました。点差はついたもののYFMPとの試合では真剣に一生懸命、手を抜かずに頑張ることの大事さを相手から学び、結果としては負けてしまった試合でももう少し頑張れば得点チャンスをモノにし勝つことができたかもしれない、という「可能性」も大事な糧として今後も取組んで欲しいと思います。

【さあ、これから】

今回、同じ年代の選手たちが如何に真剣にサッカーに取り組んでいるかを身をもって体験できたことで、今後更に子供たちがサッカーに真面目に楽しく取組んでくれることに期待し引き続き活動していきたいと考えています。既に子供たちには話していますが、秋の国際チビ子での勝利を目標にまずは改めて「技術が重要」なこと、その上に「個人・チーム戦術」があること、また、なにより「あきらめない頑張り続ける気持ちが大切なこと」を繰り返し伝えながら活動してい

ます。

【御礼】

最後になりましたが、A・Bチームともに審判の協力をいただきました平澤さん、(保護者の)益子さん、連日応援に駆けつけていただいた保護者の皆様に感謝申し上げます。かながわクラブの保護者の皆さんの声援はどのチームより大きなもので子供たちも勇気付けられたと思います、本当にありがとうございます。そうそう、次回からはタオルマフラーも持参をお願いします(笑)

(小野 津春)

小 3

【新しい要素を加えながら…】

3年生になったからといって大きく活動内容が変わるわけではありません。勿論一人一人の技術の向上という基本姿勢も変わりません。しかし、少しずつ新しい内容が加わります。フェンス越えのキック練習にはコーンを倒すという要素が加わり、ボールをきちんと正確に蹴ることが要求されます。ボールキープには、ドリブルからゴールを狙うことが加わり、より実戦に近い状況が展開されます。ドリブルの練習にはフェイントでディフェンスをかかわりからのシュートという要素が加わり、実際の試合と同じような場面を想定したものとなっています。

新しい要素を加えましたので、最初はどうもできないのは当たり前です。できないことをできるようにするのが練習です。「できないよ～」と弱音を吐かず積極的に取り組みましょう。焦ることはありません。一つずつのプレーを丁寧に練習し、確実にできるようになってから、その後でスピードを上げていくようにしましょう。

【動いているボールという要素】

実際の試合の中では、静止している状態のボールはキックオフ時とフリーキック、コーナーキック、ゴールキック時ぐらいしかありません。それ以外はほとんどが動いていますので、さまざまな練習において、動いているボールという要

素を加えることとなります。止まっているボールでも動いているボールでも同じようにきちんと止めたり、蹴ったりすることができるようにしましょう。

【離れてみると新しい展開が！】

サッカーでは22人のプレーヤーに対して1個のボールしか与えられません。一人の選手がボールに触れているとその他の21人はボールに触れることはできません。我も我もとボールに触ろうとすると、22人がボールのところに殺到し所謂お団子サッカーになります。22人が一斉にボールに触れようとするお団子サッカーではあまりボールが動きません。そこで、味方がボールを持ったらず離れましょうという約束を作りました。

では、なぜ少し距離を置いてみるようにするのでしょうか？多くの人がいるところでボールをプレーしようとしても、近くの相手に邪魔をされて(もしかすると味方にも邪魔をされて)、自由にはプレーできないものです。ところが離れて待っていると、ボールを持った瞬間には周囲に選手がほとんどいない状況になり、自分の思うようなプレーが可能となります。

では、どれくらい離れて待っていればよいのでしょうか？これは〇〇メートルと決められるものではありません。お団子状態の中から次にどこにボールが動くのかを予想して待つのです。ボールに触りたいという気持ちをぐっと抑えて、次にボールはどこに動くのかと考えながら待つのです。

【4年生にチャレンジ！】

3年生は4年生との平日の練習が始まりました。上級生との練習は上手になる絶好のチャンスです。3年生が4年生よりうまくできないのは当たり前です。できないことや下手なことを練習して、できるようにしたり、上手にできるようにしたりするのです。練習する前から「出来ない」と諦めることなく、積極的に取り組みましょう。毎回、4年生に食らいついでいけば、上手になることはあっても、下手になることは絶対にありません。「いつか

4年生に追いついてやる！」という気持ちで平日の練習に臨みましょう。

(佐藤 敏明)

小 2

4月は体験スクールが予想を上回る盛況だったこともあり、時間を調整し、2年生だけの活動を行うこととなりました。

そのなかで、テーマとしたのは

- ・ 常に周りを意識しながらプレーすること
 - ・ 常に考えるということ
 - ・ 相手の重心をみてかわすこと
 - ・ 相手をだます(裏を取る)こと
 - ・ 常にゴールを目指すこと
- の5点でした。

そのために、周りを見ながら考え、相手の裏を取ることでゴールが出る練習はないかと考えおこなったのが、3チーム(2~3人/チーム)のバトルロイヤル形式のゲームです。計6個のゴールを六角形に配置し、自分の色のゴールにゴールすると勝ちと言った練習です。最初はとったボールを(正面の)視界に入ったゴールに闇雲に向かっていくシーンが見られました。しかし3チーム同時対戦なので、2人vs4人(3人 vs6人)の状況の中、少し時間をかけると必ずとられてしまいます。ですから相手の守備体制が整った状況から突破してゴールをするためにはちょっとした工夫が必要になってきます。そしてヒントを与えたところ、どちらのゴールが狙いやすいか?(どちらのスペースにボールを運んだ方がいいか?)を考えてプレーしたり、どちらのゴールを狙っているかを相手に意識させ、その逆をついたり(相手をだましたり)といったシーンが見えてくるようになりました。また、それを実践することで結果(ゴールが出来る)傾向にもなりましたので、引き続き、このような練習をしたいと思います。

しかし、上の練習を実践するためにはなんと言っても技術が必要です。

顔を上げながらのドリブル、ステップを踏みながらのドリブル、状況に合わせた切り返し、両足いろいろな箇所(内側、外側、裏側)でのコントロール、体の使い方(相手とボールの間に体を入れる、相手のいない方に回転する等)等、必要な技術をあげたらきりが無い程、いろいろな技術が必要となります。小学生年代は『体が利く』ことで技術がカバーされてしまうことがあります。特に筋力がつき始める中学生(体での差がなくなるころ)から、技術の差がプレーヤーとしての大きな差となってあらわれてきます。ですから、技術の向上は今の時期にどれだけやっても損はないと思います。とにかく日頃からボールに触る、少しの時間でも毎日リフティングをする、毎日15分でもアウトサイドのドリブルの練習をする、苦手な足で8の字ドリブルを練習する、みんなとサッカーで遊ぶ等、どのような方法でもいいので、ボールと友達になってくれたら、嬉しいと思います。

(但し、「リフティングやキックが上手」=「技術がある」ではありません!! その点誤解のないようお願いいたします。技術は試合で活かしてはじめて技術です!!)

それと、これからは交流戦もあり、秋には公式戦もあります。

多くのお父さん方には是非、審判資格の取得を頂き、皆様でご協力、盛り上げて頂きますようお願いいたします。

また、何か質問があれば(どんな質問でもかまいません)、練習前後等空いている時間に気軽に声をかけて下さい。

最後に『えっ? そうなの? 知らなかった?』という保護者の方々もいらっしやと思います。何故、『かながわクラブ』の『かながわ』は『神奈川』と漢字ではないのでしょうか? 正解がわかった方は、私までこっそりと回答を教えてください。(益子 伸孝)

幼児・小 1

11日~25日の3回の体験スクールには延べ129名の幼児・小1生が参加しました。このカテゴリを担当するのは、丸山コーチが小1生の時以来です。二世代も若い保護者の方々の熱い視線の中、たくさんの子供たちとサッカーで過ごす時間はやはりとても楽しいものでした。

初めてインステップでボールを蹴る子、ドリブルという言葉を知らない子、握手の仕方を知らない子がいたことは少し意外でしたが、私が何よりも驚いたことは、50名もの子供たちが私の話をきちんと聞いてくれたことです。

30年前の低学年の子供たち(二木コーチ、益子コーチが小学生の頃です)は「お砂いじり」や「おしゃべり」に夢中で、コーチの話なんて聞いてないのが当たり前でした。靴を左右履き違えていたり、靴下のかかと部分が靴の上に出ていたり、ボールがなくなった!と泣きついてきたり、また、みんなを黙らせて説明するのにモグラたたきのごとく一人一人注意し、「そんなにおしゃべりしている人はオウムとお話しさせますよ!(これはG幼稚園園長の名セリフでした)」とチョップリ脅かしてみました。

当時は、それが幼児・小1生なのだと思われ、理解・納得し、従って、トレーニングというよりは「ボールと遊ぶ」という要素をたくさん取り入れたメニューで指導していました。

それに比べて今の子供たちは、コーチの顔を見て、説明を聞いて、やってみようとする。これは、驚きであり、感動です。また、「先生、2回ヘディング出来たよ」「今日はね、このあと和太鼓の練習があるんだよ」「ボール蹴られちゃたらどうすればいいの?」と、次から次へと子供たちが私に話しかけてきます。これもまた、驚きと感動です。

でも、同時に『何かが変わってきた!』と感じました。

30年前には、子供たちが「ねえ、」とか「コーチ!」、中には「ハマノ!」と呼ぶこ

とはあっても「先生！」とは言わなかったなあ。体験スクールという場面はなく、子供だけが友達を連れ立って参加し、翌週には入会する、というケースが多かったなあ。

そう！それは、子供たちが実に、本当に、「ちゃんと」「しっかり」していることです。そして、それはサッカーを通して身につけてもらいたい「集中力」「理解力」「判断力」「表現力」「他人への関心」の観点から重要な下地となります。

そうか！Jリーグがスタートして18年。チームの下部組織で育った子供たちが、お父さん・お母さんとなり、「サッカーメジャー世代(益子コーチの言葉をお借りします)」を担い、その子供たちがサッカーを始める。サッカーがごく当たり前になった生活の一部になってきているんだ。これは素晴らしいことだ。

この子どもたちがやがて大人になる頃には、日本のサッカーはどれほど発展しているのだろうか。ワールドカップ優勝の夢が叶っているのだろうか？4月は、そんな思いを巡らせる時間を過ごさせてもらいました。

でも、ワールドカップイヤーだというのに(初出場が決まった)12年前とは比べようもない、この静けさ、盛り上がりのなさは何なんでしょうか？非常に不満です。(浜野 正男)

Papas

【新年度スタート】

2010年度がスタートしました。今年度も、事故・怪我なく、明るく元気に「壮年サッカー」を楽しんでください。

この4月から、港北小での活動は、主に浜野が担当することになりました。体験・入会希望の方への対応、皆さんへのイベント案内など、サポートさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

例年通り、県シニアリーグ(コンペ・レック)や市シニア交歓(over40)の試合がある日には、under40主体の活動となりますが、その日の参加人数に合わせて、

ゲーム形式のメニューやミニゲームを加え、時間内に出来る限り身体を動かすゲーム中心の活動にしていきます。

また、3月の修悠館高校でのパパス・スペシャルのような、フルコートでの試合(対外試合を含めて)をできる限り実施していく予定です。under40の皆さんもお楽しみに！(浜野 正男)

【県シニアリーグ開幕】

1部自動昇格を今期の目標とするCompは、昇格後の開幕2戦を1勝1分とまずまずの出だしとしました。一方、4部で壮年サッカーを楽しむRecは、太田監督代行による新体制でのスタートでしたが、開幕から4週連続の4連戦でしたが、0-1の惜敗が三つ続いた後、3部から降格したばかりの強豪明星FCを1-1のドローとしました。両チームとも10月までのシーズンが始まったばかり、怪我の無いよう頑張ってください。

【試合の出欠確認】

Papasでは、原則として公式戦、交歓試合を問わず、試合前にeメールによる出欠確認を実施しています。仕事や家庭に多忙を極めるPapasメンバーですから、メンバー不足による棄権試合を防ぐのはもとより、相乗り車や審判の確保、ポジションやゲームメイクの検討と、試合を充実したものとし勝利にメンバーを導くために、極めて重要な役割を果たしています。そこで、新年度の初めに当たり、改めて二つのお約束を確認しておきたいと思います。

一つは期限内返信です。スタッフも時間の無い中で集計作業をして試合の準備を進めていますので、締切りを是非守っていただきたいのです。参加不参加だけでなく、未定という回答も用意してありますので、まずは返信メールを出してください。もちろん変更や訂正があれば速やかにメールをお願いします。どうも締切りを守ってくださらない方は、特定の方に偏っているようですが、お仕事も忙しいでしょうが、期限内返信にご協力をお願いします。

二つ目は、返信フォームにしたがっ

て型どおりの返信をお願いします。多数の返信メールを集計しますので、ご挨拶やお断りなどが混じったバラバラのメールですと、内容を把握するのに時間がかかったり、集計を間違えたりと、結果として皆さんにご迷惑をかけることになってしまいます。どうぞ返信フォームにしたがって、3行ないし4行の型にはまった返信メールをお願いします。なお、不参加の理由や故障の回復状況などは、行を数行空けて末尾に記載していただくと大変助かります。

良い試合の準備が充実したゲームメイクに繋がり、良い試合結果に繋がると思っています。改めて出欠確認返信メールにご理解とご協力をお願いします。

(茅野 英一)

ヨーガ

【タイ式ヨーガ】

「ヨーガ」とひとことで言ってもいろいろなものがあります。

最近、興味をひかれているのが「タイ式ヨーガ」です。タイ式ヨーガを組み込んだクラスを担当することになり、その練習をかねて顔のマッサージ(タイ式はマッサージの要素も入っています。)を自分で行っていたら、なんだか頬のあたりがスッキリしたみたい。「先生、痩せたの？」と聞かれることが多くなりました。おお！すごい効果です。

インドのヨーガは流派によって呼吸やポーズが違っていますが、基本的には共通したものがあります。また、違う流派同士でもお互いを認め合うところがあり、ときには融合してしまうといったおらかさとか懐が深いとか・・・良い意味でとてもインド的です。それだけでも大陸的な大きさを感じますが、なんとタイ式でも多くの共通点があるのです。

たとえば、本来、私が行っているインド式のヨーガには「人の体にはプラーナという気の流れ」があると考え、その流れ道を「ナーディ」と呼びます。タイでも同じ考えがあり、これを「セン」と呼ぶそうです。科学的にはいまだに証明されていないのに、共通の概念をもつ言葉

があるなんて、それも多くのひとがその存在を認めているなんて驚きです。

この「セン」マッサージ効果でスッキリ小顔になって、今期も皆様にお会いしたいです。(伊藤 玲子)

理事長の戯言^{たわごと}

【キャベツダイエット】

と言っても、3食キャベツを食べるとか、1食をキャベツのみに置き換えるとかといった方法ではありません。

キャベツの収穫です。

標準で1箱8個入り(約 10kg)を1度に100~130箱出荷します。切って箱に詰めて畑から運び出して、トラックに「エイヤッ」と積み上げます。

それを農協に運び、パレットの上に5箱×10段の高さに、これもまた「エイヤッ」と積み上げます。

朝 6:00 頃からの作業です。

それからクラブの仕事に移ります。

春と秋は、少しだけ筋肉がついてダイエットになります。

(内田 佳彦)